

国際競争力をもつ電子回路技術者育成モデル調査専門委員会

設置趣意書

電子回路技術委員会

1. 目的

日本の電子回路技術・教育について、海外の現状調査を通して俯瞰することにより、世界レベルで活躍できる技術者育成について考えることを目的とする。大学、企業におけるグローバル展開を視野に入れた電子回路技術者教育の活性化についての現状の取り組みについての調査、世界レベルで活躍している電子回路技術者や技術者育成に携わった方々のご講演を通して、アナログ回路技術とデジタル回路技術が混在する現代の電子回路技術を高専教育機関において教育するための指針、ならびに社員教育の指針について検討する。

2. 背景および内外機関における調査活動

電子回路は、電子工学の基盤となる重要な技術であるにもかかわらず、その教育の重要性が高く認識されていない。特に、日本では、専門家以外には、地味な分野という認識にとどまっている人が多いため、興味をもって集まる学生は多くない。また、日本の大学における教育プログラムについても電子回路の重要性が軽視される傾向にあると、電子回路教育に従事されている方々より聞こえている。しかし、海外では、積極的に教育・研究され、電子工学の基盤となる電子回路教育こそが電子回路技術に欠かせないと認識されており、このままでは日本の電子回路技術が立ち遅れてしまう危機を感じている。さらに、企業では、優秀な外国人採用も活発となり、日本人学生も世界レベルで通用する力をもつ技術者をさらに増やしていくことが求められている。電子回路技術者の教育に関しては、“第3次・電子回路教育プログラム調査専門委員会“にて調査検討が行われてきたが、日本国内における調査に留まっており、このような活動は他学会に例が見当たらない。本委員会では、国内外での電子回路技術教育に調査範囲を拡げ、グローバルに活躍する電子回路技術者育成モデルについて調査する。

3. 調査検討事項

- (1) 海外における電子回路技術・教育の調査検討
- (2) 日本の大学・企業における国際交流の活性化についての取り組みの調査検討
- (3) 企業が望む国際競争力をもった技術者像の調査検討

4. 予想される効果

電子回路技術・教育についての国内外での取り組みを調査することにより、世界レベルで通用する人材育成のための方法、教育プログラムを作成する上での検討資料となる。これらの調査検討により、世界レベルで活躍できる広い視野をもった学生および若手技術者を育成することが期待できる。

これらにより、世界レベルで活躍する電子回路技術者の数をさらに増やすという産業界の要請にこたえることが可能となり、我が国の産業発展に寄与するところが大きいと予想される。

5. 調査期間

平成30年（2018年）7月から平成33年（2021年）6月

6. 活動予定

委員会 3回／年

研究会 0.5回／年

7. 報告形態

部門大会でのシンポジウムの形式または研究会における論文発表にて報告する予定である。